

古今演説百人首

八

柳田文庫
文庫11
A1688
2

10

15

20

25

30



方今有名なる慷慨悲憤の士草間時福
 福は進んで天下の是非を断つるを以て
 以て自ら任とせし其平常交際を
 せし有志の士も擧つて議論し及び
 皆口を鋏し舌を巻ひて三舎を避け
 ると云ふあり氏の京都府の産とし
 ていと切ありと云ふ六載と通稱
 後時福と呼び石鐵居士と号せり
 弱冠一々博く歴史百家の書と歴
 派し又詩歌及び文章の比其長と
 る伎倆なり明治九年の比其憲政
 府論と朝野新聞社に入社し新聞條
 小抵綱せしと以て澤田直温の徒と
 あり禁獄三ヶ月の刑に處せしと
 と傳聞せり

源訃書首

文庫 11
 A 1688
 2

草間時福
 一部遺稿
 百世
 漢書
 起稿
 柱筆
 力馬
 杵忌



48-7777

松平近狂と舊幕府徳川征夷大將軍の家臣あり昔時諸藩勤王復古の大義を唱へ倒幕の議論紛々起りし比る氏い倍々佐幕の説を唱へて以下八百万旗下の士氣を鼓動して維新の春同志の者と江戸城下の西北方にお上野山内一管居一々官軍を抗抵禦戦をせし哀哉烏合魚集の兵士一て守城はる敵を敗北して脱走せし後古斯る責き幸福の御世は治まり文運日一月一隆盛に至り人民を皆開化の地に進めし智識も歐米の人民より劣らざる程の世となれば氏も亦一魁生の思ひあり其自主の理由と普く士民を説明せんとて大坂新報編輯長と成れりと云ふ



松平近狂

あ
世

世をい忠

後同志を

英石をくくす

星亨は東京府下の産ゆりて父と相田屋徳兵衛と呼ぶ泥工の巨領あり一朝苗子推り一家離散して母と氏を携へて星泰順氏と再嫁せし目つて星の姓と通称せり幼より學と好み文字と習ひ汲々乎と一々晨夕の間も怠惰はらなく蠶雪の勞を積んで大ひよ伎倆衆ふ秀でたり性穎悟激なりて卓識高知なり常よ云ふ男子名と天下に轟あはべいと身ち其言の履むべきや方今開明の世不及び天下の士民皆知識を進み故法廷裁判の事多くとありしりしが未だ代言の者流なき小氏の法律學の所長技あるを以て法廷小備われて代言人と撰擇されしあり



星亨

是をいお別

義忠を立

親を

夫を存

はを意也

林昌之助の舊諸侯の列小在りし人
 上總の國に其所領の地も有
 りし舊諸侯中有名なる大才子と呼
 ぶれしも王政復古の際に當り徳川
 氏臣下不逞の徒と征討の官軍関
 東へ下向の折小田原藩の兵と募集
 して進んで箱根の嶺に籠りしも非
 と是も勝つ能わぬ悪い善と遊ぎ
 可うに邪も正と倒を能くしと古
 人金言の如く忽然敗走して士道の
 名目と失ひし後跡に舊地へ返りし
 り然れども斯る俊才ある人なれ
 ばあも前非を悔ひて謝罪恭順の
 とあれり遂に文明の鴻恩に浴して
 自主自由の道理と頻りに主張せし
 ことと聞き傳ふ



林昌之助
 進る
 忠退列の
 世民集

居古りく加賀の千代ある婦人の
 排借飛句の事は長トありと世人も
 能く知る該句に何かがわよつらん
 とわけてりし水杯の句は此婦の
 絶吟と賞せしも實に風雅幽致の
 者流に清貧と樂み動もまれの家産
 と破り家道遂に治すに及らざる
 者許多有り方今の人士も好んで為
 ざる所ろあり却て笑ひ習ふべき婦
 人ありあを肥前の國長崎港に棲
 する大浦の慶と稱せし婦人を大浦
 とありしより思想と商法と轉心
 志と勵まして大商法と為し且外國
 商人と貿易感ありて男子も及ばざる
 氣象ありて巨萬の蓄財し西洋船と
 購求はる人至るに實に賞歎せり



大浦慶女
 大々如あま
 以此婦を冠す

世に許可代言人と唱へし伶俐滑智
 の人士數多ゆし中にも自立して
 断然所見の在る有つて故に該千
 百餘裁判の所長と稱職して退ひて
 代言者流の間に遊び進んで横濱港
 に至り其業を盛んに営みしに百般
 の難件を輻奏し独り其奇と擧げり
 四面議論を受くも挫折せし能く
 之を辨解説明せし池田庄三郎氏の
 真賦の敏明の論と待てば如より和
 漢の字と好み又如ふらた和哥とも
 誦くせし頗る多才の俊傑あると時
 人之賞歎するに至るあり氏産生
 する所を東海道遠江の国濱松の豪
 商あり其年正次郎氏も亦勤王有志
 の名ありと聞たり



細川瀧の四國土佐高知縣の人あり
 夙に政訓の学を志し奮然奮里
 と去り航して大阪に遊び而して又
 東京へ來遊して三田福沢諭吉氏説
 立する慶應義塾に入り頻り小英学
 と修業既ふ就り復に奮里に帰者
 を折しも宇和島城下一の中学校
 ありに該賞の聘を受けて教員とな
 り大いに風儀を一洗改革し後
 去つて再び東京に遊び東京日々新
 聞社の編輯人とあり福地氏の奨励
 と得て該女と嫁娶して小一家と為
 せし何の風味も変遷する長久し
 くを妻と離別して走て大阪に遊
 ぶ實は飄々乎と節操ありと世人
 の評せらるる聞たり



斯る文明開化の域に進みし世に當り丸き地球と見ゆが丸くはなれずと喋々する高辨雄談を以て往々講義演説して至らざる所なき程に東奔西走せし佐田介石も九州肥後の國熊本縣下小産出せる高僧あり師ハ直宗派の僧侶なりと世上有名なる講談者流の一名ありと性奇巧なる天品ありて一家の主張せしまると遂に控屈する林と示さるる奇説家は其談演説を聴きし人々如何ある堂々たる大人君子と雖ども一時其演説の論議大に然りと為れ入も夥多に至りて全く高僧の説明解了の巧且妙なるありんと其聴聞せし人々の風説を鳴呼

佐田介石



以道ありて
五鈎示
是一種也
奇詭也

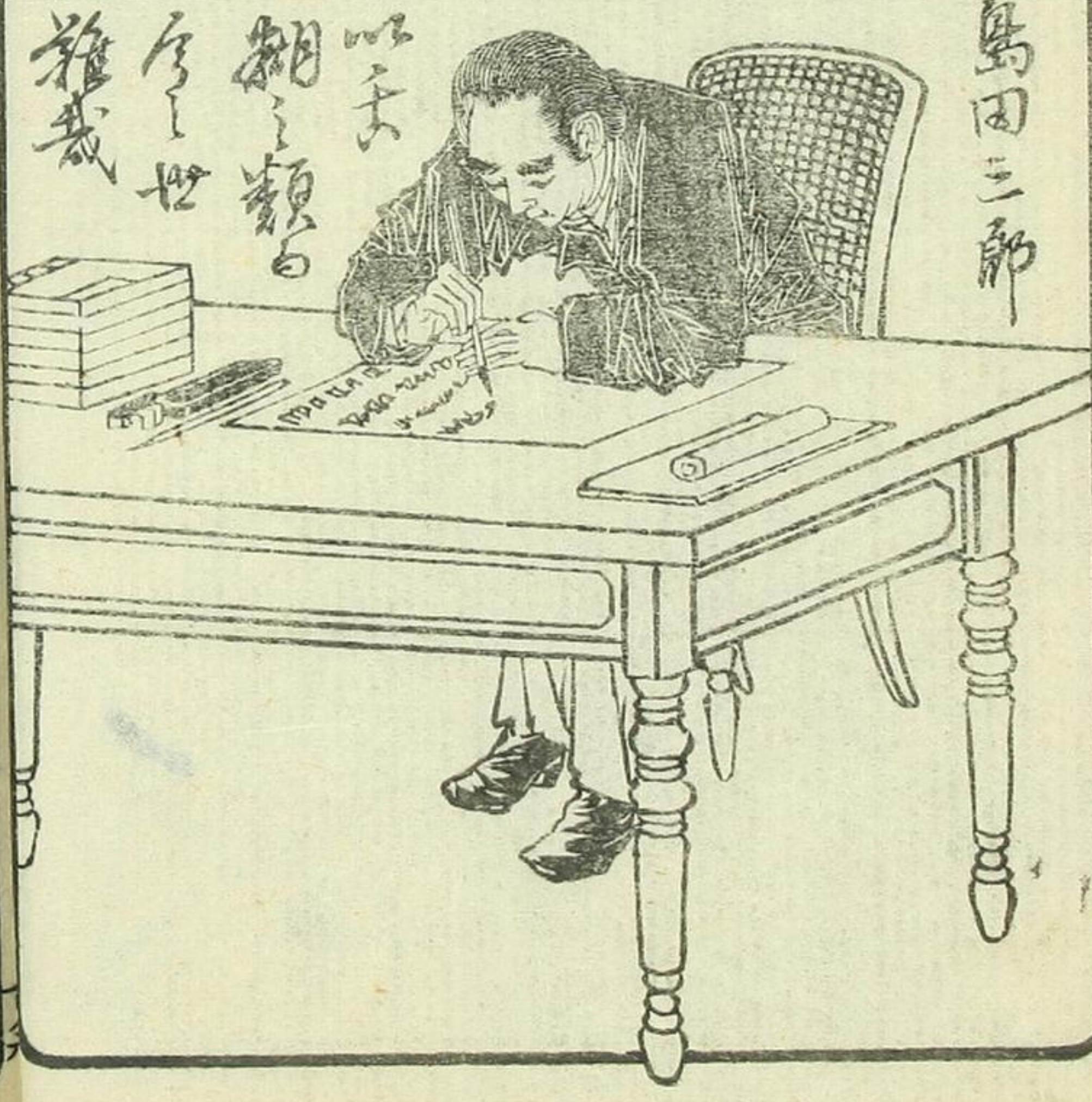
世小儉約と稱して其行為は會々不出づるものありて更に慈善仁愛の心小薄きもの多きい実昔しアガムの罪と犯せしよりして人心皆罪の海小漂ふ者なりと云ふも亦夫も然るもくんう是れ大丈夫なる男子の為さざる所あり愛ふ婦女子にして慈仁愛心は深き者なり其名今業と唱へ身てき世界の吉原に金瓶樓ある筈住居をりしころの廣々と此の世の入れうきあといひくすや我ひ恵さんと折しも幕府の舊時代物價倍々騰貴して市中の人々難儀するありと見聞て此女子は百口金荒ませしと世の人聞てあれと賞歎せざるをありりとせ

今業女



吾人を
のまじんの
善妙なるさ

今や演説者流の中にも最も其声價
 を占得せし島田三郎は舊幕府徳川
 家の臣子として天性豪壯卓見にして
 才智人に秀で當時世人呼んで聲
 ある奇見とあせし弱冠の前より
 和漢の学に志ろぎ勉強衆目を驚
 ろうけしに至るまで倍々議論小
 巧みあり遂に東京に到り博く天下
 有志の人と交際自ら奮然思想の
 寄せる点りて士民の自主の理由
 と説き大ひて文明の域を勧奨せん
 ことと謀り更聖徳社と称せし政談
 の演説者と聞き廣く滿街の士民に
 示りて以て特権独立の心志を勵
 せんと欲せし有名の演説家あり
 と聞く



以て
 相類
 俗裁

京極高典は東京府の華族あり公々
 幼より貴重に養育を受け舊諸侯の
 列をなれし惟ふ若殿ある氣象あり
 ありんし豈因らんや一大俊傑と
 て穎敏高智の性と以て一見して識
 の卓識あり公にして幼より漢字
 と好み詩文と能くせしあり公長そ
 る頃王政復古文明開化の御世あれ
 る諸公より先鞭して自主の理と通曉
 せしれ頗る慨世の思ひありて一朝
 政府に於て小笠原島と開発させん
 為め官吏と派遣せられし公も亦
 奮然志し決て該島浪の航所
 也厭はば官より乞うて同發願ひ遂に
 彼地の景況と探知せし實に華族中
 に稀有の憂傑とらん故



京極高典
 富貴を利を
 人を知る也
 非是公而誰
 乎

室幸次郎へ越後の国高田の産小して其父市良右衛門と曰ふ氏を其長子たり性温厚篤實して常に小心翼々能く謹んで孝悌の道を行ひし人あり弱冠の頃既に詩書百家の書と通曉し才智兼て秀でたり明治維新の前より物に勤王の大義を唱へ常に有名なる長谷川鐵之進と松山良造輩の脱走有志の人物と愛し京都王室の事を忠思せしが遂に復古の春となりしに氏も勤王の戦ひに爲り後郡長となり管下の士民を撫育して開明の理を諭し自首の推理又工商の世に益を爲るものと勸導説示して長夕勉勵せし俊才の人ありと聞けり



津田貞七上佐の国高知縣の人あり性伶俐穎敏として頗る俊才あり少ある時世に神童の譽れあり夙に學を好み經史を讀み博く百家の書に涉り又詩文と能くし文学の伎倆至らざる所あるを長けて大阪に遊び文壇の諸士と交り廣く天下の有名之士と交せり時浪華の三才子と稱しあり一朝風靡の雅客と占んが爲り大坂難波村に小樓を築きて花月酒肴に自由の便と設けて雅客を集め大いに利を占得り後朝日社の新聞に入りしも故より別に見る所ありて慰新聞を創り社を設けて廣く民権の自由と説明しなりと聞く



菅島吉太郎は茨城縣常陸の国水戸の産なり性豪壯勇氣ありて人不屈せざる所の氣節ありて宛然たる龍潭の上風と固有せし一奇人なりて頗る詩書百家の書と好み長して博學多才の聲價を得たり氏は茨城毎日新報の編輯人とありて一時名と江湖を賣りたり其説論最も天性の固有せし人民特権の旨と説示自由の理と了解をるふ至つても實一人の私をかひて解くに至ると謂ふは該博學多才の士なりとされば之れと能く為どある所のいさるあり嗚呼斯の如き人世に産出せし之れ全く天公常州の頑民として早く開明ありしめん為り



菅島吉太郎

志氣而台之矣

嗚呼

民之

手可

也

方今区推者流と別派して一種の奇客遊説の士民輩々乎とて烏合會同せし者あり是又一種の遊民うて世道富國の益更に無きものあると江湖の有識者の大ひま此の慨歎せし所なり其奇客の行為は月に酒を青樓に下宿し至らざる所あり但旦夕傍若無人此風彩を以て奇人と稱し或は愛國社會の一名士と主唱し而して其説論する所も亦他と誹まのの一点小過ぎば実は無用の長物者流と謂ふも世人の言虚あらにあり然れども該士州高知縣下に産する所の人中島信行あり人其性篤實りて真に國會如何民権如何と熱説する者ありと聞



中島信行

海平極

學

熱情

之

肥塚龍て神奈川縣下の人なり初
 法衣と禪門に懸け佛學と研究せし
 功ある將觀世音の妙法と學ひし
 其變化の速くあらすと三十三休
 幻化せり觀音より疾し晨は未魚
 と叩きし手て以て夕に民権の演説
 者と變化して緇衣と蟬脱せし後
 儒者となり又見臺と地却し説權
 登り洒々然乎して自由の道理を
 演説し當時世人目して愛国民権者
 流中の甲乙と争ふ者ありと呼ぶ氏
 天性伶俐偉才ありて臨機應變の
 妙理と識了しそのつと世上と抵觸
 する者あり故に開明の時と識
 つて士民に特別独立の権理ありと
 と説示せりあんと人の恭話あり

欧米各國の士民の貴賤高卑の別を
 人皆學術と勉勵して以て開明の
 道不 equal 是れ勉めりて誠不盛
 るると謂ふべし今や五朝も彼の政
 米比高所と履み上を縉紳の士より
 下も車夫馬丁の徒に至るまで尽
 字と知り書と讀みんば可なり
 らざる旨と能く辨知せし未だ其
 功能も現出せざりしに持り貴重の
 華族より西園寺公望ある脚を東
 京府に現せしは是も則ち開明の域
 に進歩する所の天與あるん歎と
 時人賞歎せざるのあり御を博く
 和漢の學不富み加ふる不欧米の學
 と修し又法学に長し詩文と能せし
 一大豪傑なりと云ふ



肥塚龍
 一週一喜
 風好しと云



西園寺公望
 才學
 世人
 智識
 蓋天二

河野敏鎌と舊土州高知藩の士として益彌と通稱せし人あり幼より文武の道に志ざし長らく尊王攘夷の大義を唱へ常に切齒扼腕慨然して王政復古事に係つて屢々不慮の危難を受へも更に断乎として撓まざる特異の氣象と含有は天下既に維新の春とあきば倍々思想と勤王の志下も万民の撫育に注意はる実小南海の一大壯士と云ふ也官進んで文部卿に至りしも故よりて辭職し又天下に士民文弱遊惰不流れしを大に慨歎して此の士民の氣を振起せんとして頻りに立憲政体と創立せんと自主の理由と以て日夜説明せしありと聞く

河野敏鎌



勤王の志
安民又為
持首功

益田孝も佐土の國相川港の産し世々徳川氏に仕ふ父と云ふ其長子あり父材幹なり文字に通じ而して子も又之能く幼より漢字を好み孜孜怠る時間なく螢火雪明の苦学と為りて稍々長むる小及んで該地の奉行彼風氏の一族を引て江戸に徙りたり于時戊辰の瓦解ありて世々孝子も思想と商業と轉じて三井氏と謀り三井物産會社なるを創設して遠く海外へ支店と派遣して代り其社長とありて諸人を指揮して倍々日本物産を以て廣く海外へ輸出せらる富國理財の事小暇莫能く勉めしを實小凡商頑士の及むざる所あり

益田孝



身是為精
頓之富
行為温
厚篤實者

王政維新の後廢刀の令下りしに被
 頑的たる固陋の士之を怒み之
 と怪しむ其甚きに至りては負刀
 して歩行せし者ありては實に憫然た
 る野蠻臭氣の多き者かると謂ふ空
 かり然るに爰に一士あり談令と待
 左に未だ維新ありきる前ふ當たり
 断乎として父に所見を説明して雙
 刀を脱して進ん商業を営みんと
 志きせし即ち是れ三野村利介氏
 あり氏を奮酒井藩士として堂々た
 る一槍士ありし切り異相奇才
 あり世人神童ありと唱へあり長
 ぼるふ及んで三井銀行を創立して
 自般經濟の術を修めしゆ海外の
 人も此氏と新聞に喋々せりと聞く



夫は商法の術なるや實に難し
 り人性類敏伶俐にして頗る俊才あ
 るも前垂と下け算盤を取つて大
 ひふ敗と取りし若ハ世上拔萃に暇
 何と又遅鈍の風彩しし字と記さ
 るも容易の事なる者ありては該商
 の一点に至つては生馬の目玉と披
 く程ある商術は富々者あり然る
 と云ども今日の商は遅鈍不學の者
 多くては真の商法と為は能わざる
 開化に進みし者ありては愛し岡田平
 藏氏を舊江戸の産小して世々商た
 りしも氏の文学は長し且つ俊才あ
 りて頗る高機を通曉しし神出鬼没
 の働きある商人として海外の商客
 も皆を驚愕せざるをりしと聞ゆ



川崎八右工門を常陸の國鹿島郡の
海老沢村の郷士あり世々舊水戸藩
小奉仕せり幼より奇偉の才畧あり
長じて頗る國事に尽せり王政維新
の頃ろも大ひ大總督の宮の爲に
盡せりこと共多かりしを惜み
今倍々開化の秋に至り文明の實を
結んんとせし幸福ある御世となれ
た氏の思想を轉じて貯蓄經濟の法
方を考んかへ士民とて家と富
し學に長じ各々自活の道を開ん
と胷肝焦慮苦心して近頃東海
金銀行ある者と設立して廣く
汗となして貯へし金銭を利子と
加へて預らん爲ありと工風せし
實に厚意とソレ可しとせし唱るる



川崎八右工門

殊涌積而

為江

河一塵重來

為小岳

吾朝中古より神儒佛の三教を以て
教育せし今日の開明に當りてハ
諸教盛し講義演説を以て所々に
せし實に修身の一端とあり世道
一歩稍々補助するものとありん
と該神道と以て近頃國教と定め
し神教演説倍々盛大に至れり爰
小最も其演説を巧みあらハ平山省
齋子あり氏の舊幕府不仕へ博識類
オの士ありて始め謙次郎と叫び國
書の頭上任に參政の格に登庸して
國事不尽力に既に將軍慶喜公大政
を奉還せしに依つて氏の退職し維
新の後静岡不至り近頃遊説して
小東京に到り赤坂水川神社の神職
たりと云ふ



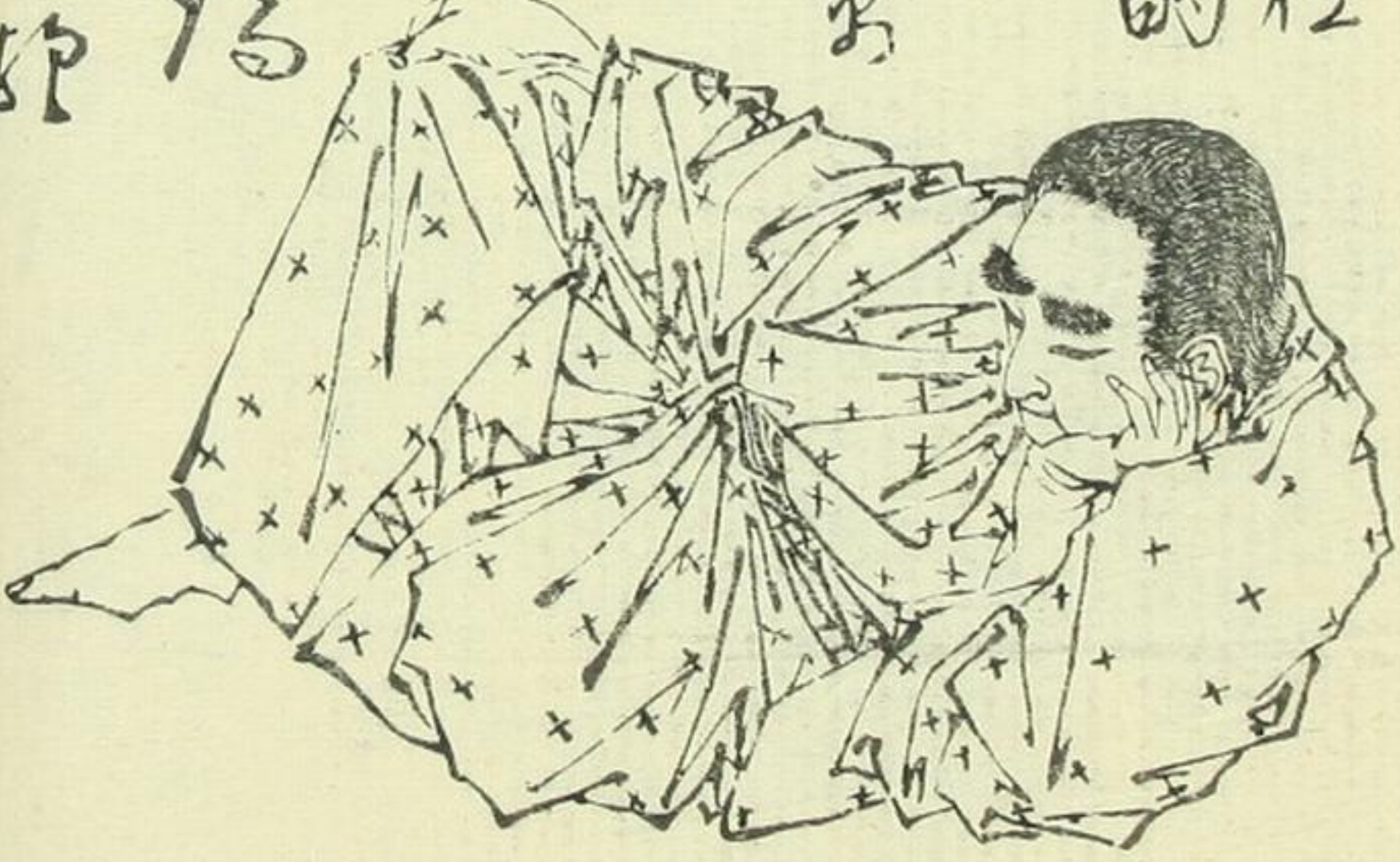
平山省齋

世の中

甘きものあり
たつてはあまき

會社商法組合商法ある者ハ大ハ小
 國と富まし且つ資本少にして大事
 と為能ざるも皆之れと合し
 組んで一會社と為さむ巨估業
 商と併立取引と為らんとか
 ざるあり吾國維新の前嘗つて此業
 ありり維新に至り商法倍々盛
 大の萌芽發現せし早矢仕氏有的
 あり人々早く此感ぜる所あり
 て刀圭の術を廢して奮然思想と商
 法を轉じて横濱港に至り丸善商社
 と創立して以て海外巨商の來賓
 と廣く賣却せんと欲して遂に十五
 万圓の資本金募集の後此社と設立
 せられり實ハ富國開化の端緒と
 基ひせり人と謂奇し

早矢仕
 有的
 利世る
 富國政
 氏と是
 何一婦
 如



林欽次を舊正十郎と通稱せし人
 して大阪の産ありせ々農家より
 父兄親籍皆を文物風雅のありし沈
 溺せりも氏を特り断乎其風彩と遊
 けん文学に夜々乎と博く和漢
 の書と歴涉して苦心勉強止むと
 あり遂に博識多才の聲價あり中年
 に至り漢学の今日の用と疎闊あり
 思想の感ぜる所ありて該海外あり
 佛國の學と修り又日夜勉め怠らば
 其業と果たせり後舊幕府の招
 きた應じて開成院の教員とあり維
 新の後江戸愛宕下よ於いて一大の
 學校と設立して以て廣く天下の諸
 生と教育せられり此開明世界と
 助くら一助ありと云ふべし

林欽次
 あらきうらぬ吾り
 身の存の秋
 ずり
 も
 の
 たる砂を
 筆のまじし



廣澤安任は舊會津の藩士として其藩の職ありし時の登庸せられて樞機の要路に居りし人ありて最も國事を尽力苦心せし者なり多う一人ありしが戊辰の兵亂の際に藩士一敗地に念りし後ハ氏ヲ大ひよ河見の感慨を以て持て青森縣下陸奥の国北郡百石村の荒地にて得て大ひよ牧場を開き外人二名を雇て其生育を為せり遂小牛馬数千頭の多き及べり近頃天皇の巡幸に逢ひ咫尺の天顔を拜見恩賜の在るありて頗る有名の俊傑あり是誠富国強兵の術何んやとこれに過ぐる所る此者なりんやと世人皆を賞歎せりと聞く



宇田川文海は下総の国結城の産にして幼少の頃より端衣と法門に被り江戸湯島切通の麟祥院の所化となり誦經の餘暇られバ寸陰と空せず諸般の學と修し詩書歴史に至るまで涉獵せざる所ありしそ月不歳不罷為乎して休むことありし故に博學多才廣聞普通の僧となりし也維新の後事故の有るありて思想と開明の正点と轉して新平榮衣と脱却して浪華新聞の編輯長となり後又大阪新聞社に入り又轉じて魁新聞の印刷長となりて藝華文壇に揮ひし者なり性頗る伶俐者として世人の交際最も巧みあり人と云ふ



理財の道は天下国家と治むる所の
 の一大緊要なる道にして上は
 府下の小一家に至るまで多少此の道
 に依らざれば国家と理むる一身と安
 んんせざる能はずと和漢古今とも
 一理にして世上の人之まを識得せ
 ざる者ありと余ども真に其妙に至
 り其精と極をひる者も亦少し
 とそ然り而して方今開明の秋に至
 り自づから其法方も差異あること
 ありしに爰ふ其精妙と研究せし
 此齊藤純造氏あり氏の性篤実
 て名利を貪むるの氣象なく常非
 常の功ありて皆之れを他に譲りし
 人ありせば最々交友の人此に感
 る所ありて吾氏と推尊するあり

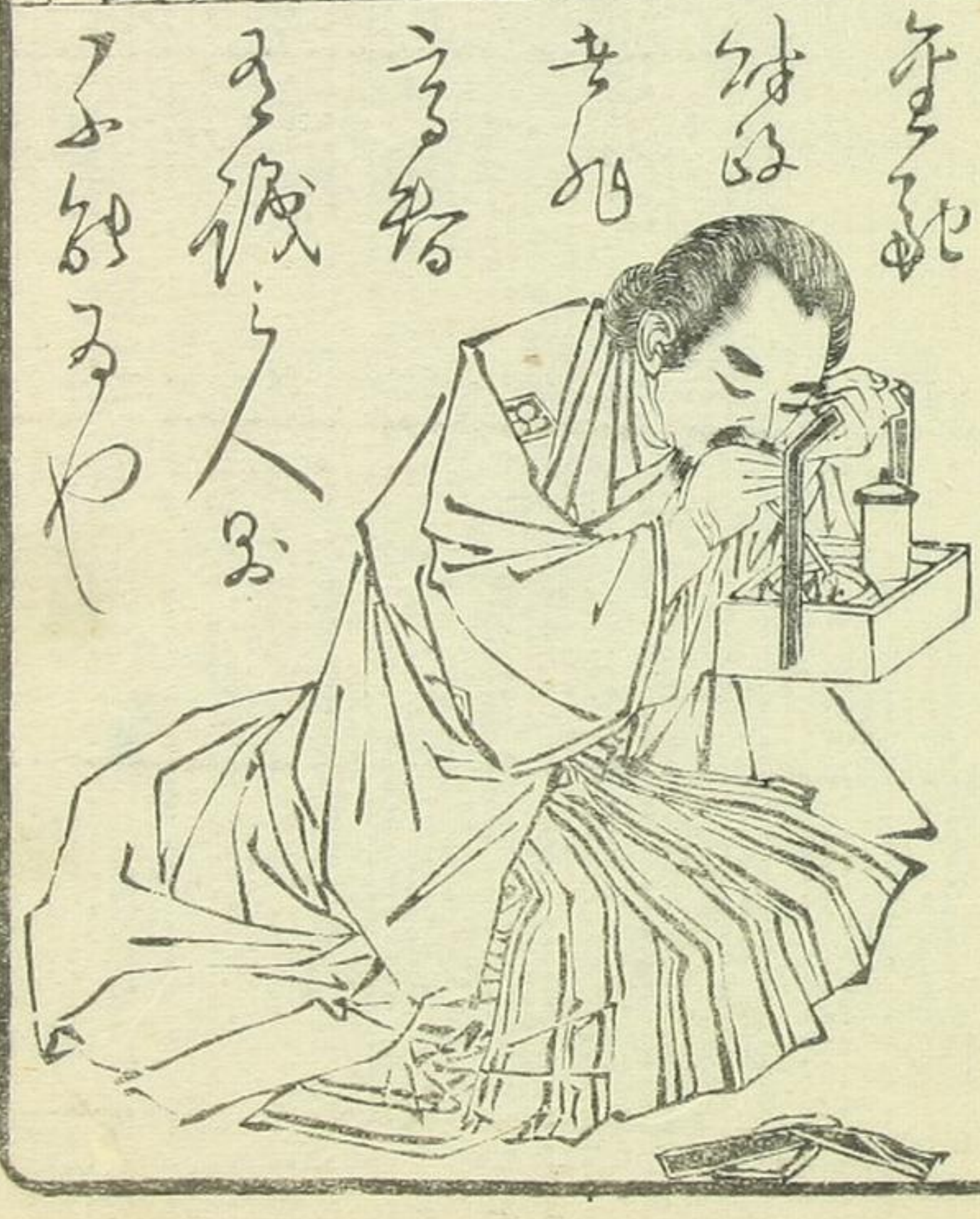
齊藤純造



理財
 術非巧則
 國家廢弊
 礎也焉

熊谷武五郎も奮出羽の國方今村後
 佐竹藩の客仕となりせや其録と奉
 りて勤王の大義を以て自ら任
 事す所々へ遊説して窮く有志の士
 と交り其に王政を回復せんとい
 志し多年の間横風泳雨の勞を厭
 ば又百散の報難と歴涉せし一たび
 獄ありと謂ふ維新の春又大いに國
 争に盡力せり後ち士民に理財の道
 と説示し身自か先鞭して華族小
 經濟富國の術と説明し其集の金
 にて以て国立銀行と設立せしむ又士
 族と誘導説破して第四十四国立銀
 行と設け氏に社長となり廣く金
 融財政の法と成せし人ありと聞く

熊谷武五郎



理財
 術非巧則
 國家廢弊
 礎也焉

藤田傳三郎其名聲既ふ世上一ノ傑
 々たり依て今此ふ其大畧と掲げ以
 て又世の諸君一告ん諸君上者上彼
 豪傑の士も必は文王と待をばして
 與らるる文王アリ而して豪傑あり
 と其の豪傑不非きなりと古人既
 一概論せり今や此氏の如き山口
 縣下長門の国阿武郡南片側村の傑
 士不産出する如より獨憶ふて大
 志あり能く和漢の書且武道の術不
 志き一持ふ勤王の大義と主旨して
 彼国亂の起りしより維新の春も及
 ぶまで教度の戦争と爲し又幾多の
 艱苦と歴て後大坂を抜つて藤田組
 あり一大銀行と設けて官民の間不
 尺力せし豪傑の士ありと傳へ聞く

藤田傳三郎

不待
 文王
 而豪傑
 之士與即
 是氏之謂乎



兵理も長ぜしりいの商戦も巧ま
 りと謂ふは實に然り夫れ商あり
 ありと臨機変ふ應じ進退馳けり
 を爲はる百万の兵と引卒つて戦地
 へ於て進退分合をも同一理あり
 然り而して其學術豊富其事情も
 通曉せしむる能くあり今や文
 明の世に當り人士往々商に歸し農
 業に歸せざるの輩或は失敗一かくば
 る多し奸商の爲すも利を占得せ
 るるもの多し然れども爰も長州の
 産物も横濱に開港をせし山城屋
 和助なる人い性豪氣よく博識俊
 才の人なり勤王の教戦功と奏し
 て後高法と以て一時世も名聲と取
 りし人ありとぞ云ふ

山城屋和助

世の中ふ
 此乃名也
 山城屋
 和助



鈴木田正雄は東京讀賣新聞の社長
 たりし時其筆鋒鋭又峻として絶情
 と陳るふ當つては春風の未海棠の
 雨と帯び秋月の夕女郎花の露と含
 むか如く春閨秋怨の情態悉く其情
 状と掃揮を復た其開化文明の識と
 頑夫情士と説示をらふ至つては自
 主の理自由の議其他工業商法の勸
 奨に至る迄方寸胸裏の發現して叩
 き尽さざる所ありき及ばざる實
 能く深切世道に益ありき如く然り
 而して氏性温厚篤実として幼より
 和漢の学に志ぎ博く經史百家の
 書と涉獵し又詩文も長し兼て和歌
 と能く人あり後読賣新聞社と去
 つて別々鈴木田新聞と發見せしと云



賣藥の世に益を多し其民
 間小常に貯蓄しわけて以て至急の
 患者起りしとき醫師と乞ふも遠
 ければ急症寢故の時小當つて実
 踏踏狼狽するのみして其患者の
 急を救ふと難し此の時小當つて
 談賣藥と貯蓄は一家に嘗て斯る狼
 狽踏踏の患ひある速やかに彼藥
 と以て医師の来らざる前よ之れを
 服用して一時の患急の病を救済を
 る所の一品なりと古今有識の人
 皆此言を吐けり今や宝丹ある賣藥
 あり暑中の節は其人体の臭氣を清
 潔し又急症の節は之れを服して
 最も其効を得る者あり此藥を創製
 せしは東京の産守田治兵衛氏あり



近年民権社會に於て演説なるもの
 大ひにせし行ふは往々講堂を開
 き士民を集めて自ら特権の理
 由自由の議を明に演説して文明開
 化の域に進めんと欲して熱心厚意
 の者有り其巧みあり小至つて士
 民の思想を忽ち変化せしむるに
 拙あるに至つては類り不政体と議
 或ひは他の誹謗と之を勤むるふ
 奇り遂に禁固幽屏の苦を求むるも
 至るも亦患の甚しきありん故に爰
 小高知縣土佐國土佐郡大川筋の士
 族一坂善城ある人を遊藝稼人
 馬鹿林鈍翁と号して奇席を開き士
 民を民権愛國の論を説明せしむ故
 けり停止せしむる裁判係ると聞く

阪寄斌
 天網恢々
 疎而不
 洩實
 然矣
 焉



廣瀬幸平の保水と号して遊賀縣近
 江國八夫村の人あり幼くして學と
 好み漢籍を涉獵して至らざる所を
 むく尽くさる所をむき小至り遂
 小博學多才の名を得たり氏初め
 伊豫の國別子山の鑛事に係つて大
 ひに尽力せし上遂に該事務を總管
 せられし後故郷に籍を變換縣
 下に移して住せり其鑛山の事務を
 總理するに至つては實に篤実を勉
 強して能く雇人職人に至るまで注
 意して之を用役せざるも後又
 大阪に遊び中野氏と謀り礦會社
 等と創設して大ひに國益を興せり
 又朝鮮國に支店を設けて其利を占
 めり人ありと聞く

廣瀬幸平



蘇波衛
 破大
 輪
 船
 萬
 里長風捲黑
 烟回首情懷洲
 尾盡飛鷗の落日
 魯西天

喜谷市郎右工門も東京の人... 風雅の意地ふ思相と寄せし... 感ぜり所ろあつて云古人の所謂... 神一到則底事不成と大ひふ然り... つて氏以為而今天下の為り一つ... 折一客来る所り云々貴樂の民間... 裨益する実ふ大あり其人命と救ふ... の一大仁術ありと氏も亦感ぜり... 散ある法方と發見して之を製し... 以て世上民間の婦女血液不順の... 至つて患ふる者と救んと欲して... 江湖に販賣して遂に支那人も... と購求するに至りし之れ實に... 益と為り一端ありんと云りん

喜谷市郎右工門

醫是

仁術也
根本皮亦
能治宿病
予了哉



子安峻も美濃の国大垣の士... 幼より能く書と読と普く古今の... 敗と看破して其事情に通曉せ... 識穎敏の俊才ありと閩藩の士皆... 氏を推尊せし藩主之を召して... 学館の教育を充てたり于時世上... 王の議論紛々起りし氏も亦大... 此事に關係せり後開成の要... 早く着眼して思想と文字と... 天下の士民とて欧米各國の学... 通ト其文明開化の風彩と悟らし... めんと欲しり而して該書の字書... ふ之しきで憾らみそ氏の憤發... 一々大字書と編成して英和對訳... と謂ふ今世に販布し購求の人百... 以て数あり至りと云ふあり

子安峻

素尔のみ
つらるるお
のり受て



花は嵐のうき
きくねらふ

雲山萬里荒蕪不毛の地も人力を振
 上げて之を拓せし美なる良田と
 なるて夫は北海道を今や天
 下の士民手と束ねて該地の荒蕪を
 坐視せしん実ふ天賜と抛棄せしるの
 一失ありん有志者の速やう斯の
 地に着目せし則之を天賜と拝受
 する人謂ふく爰は舊仙臺藩主
 伊達邦成氏を早く斯の道に從事し
 維新の後官よをうて該地へ移轉し
 其舊臣家族殆んど二百余名を以て
 北海膽振の國に至り頻りに開拓の
 業を尽して遂に一千余町の良田を
 得村と三ヶ村に分ちし程の郊野村
 落を成せし実ふ其功大ありと謂
 ふ可きなり



伊達邦成

謀奇

高自欣

龍為實

農来幸

福

竹中邦香は舊松平加賀守の藩士に
 して世々其禄を食り知り穎悟
 卓ありて好んで書と読と宵旰息
 らぬ雪の苦心能思し遂に博識
 の声價を取りし故藩主其人とあり
 と好んで抜擢して刑事の事務を行
 せしむ氏大いに勉強して其勤務
 を尽くや故下民冤罪を罹るの
 苦痛あきと悦びしも是は氏の功を
 又維新の時當り大いに勤王に
 大義を唱へ藩公として能く其
 名義を守りしに至るも即ち皆
 氏の大功あり後天下の士民として
 早く文明の域に進歩せしめんと欲
 し加ふるに尚法蓄財の点と説明せ
 し頗る世に及せし人ありと聞く



竹中邦香

國を治る事急先

聖志

回

昨日

海濱

結無血

海軍の法向

去風能其分敵

漢医の術一旦廢せしめしむ尚不為
 其業と為せしもの所も是れ其
 人の業と廢せざるに非ず未開の頑
 民頭士に至つて其奮風不泥醉し
 て文明の妙点あるを曉らざる愚民
 の好むに従ひしもの往々是れ
 るあり然り而して其最も奮舞と頑
 守固執して之れと廢せざる頗る高
 名精術と得蒼公篇崔と俗に呼ばれ
 し漢方医者の一大俊傑ある人即
 ち東京の牛込正正在りし淺田宗伯
 先生なりと政學より成立せし醫生
 と大ひふ之氏を以て嘲り笑ふも
 氏ハ恒然として倍々其節と變ぜざ
 りて治術と施せし一六固守の哲人
 ありと世に傳ふあり



淺田宗伯

父の遺

母

歳時式

微桑蓬堂

枯落聊向東

方飛

行岡庄兵衛東京の産として父と
 宗助と氏ハ天保二年と以つて生る
 幼名と定之助と云ふ穎敏奇才とし
 て商機不能く通ぜし人あり維新の
 春官軍命たり小野氏を為替方と申
 一付けられしとき氏独り此事と擔
 當し金子の流通と為し一時當時財
 臣北土東京と輻湊せし金と持ち
 通行する最も難しと為し故に屢困
 難の思ひと為せり後追々開化文明
 の地は進歩せしと視て氏又士民と
 して自主特立の理由と喻らしめん
 か為めに報知新聞社と創立して該
 資金と悉く氏の一手中より出し小西
 義敬氏と推して社主とありたりと
 云ひ傳ふ

行岡庄兵衛

執情たゞ々能

為人厚之

赤

為開

明之

祝



小室信夫丹後の国官津の人
 て世々夢商より氏物より儼然と
 て大志あり能く和漢の書と読み普
 く古今成敗の蹟と通曉し加ふる
 詩文の伎不長せり于時世上勤王の
 大義と唱ふる士往々輩出せり氏
 其有志の士と恵み窃う小之を扶
 助して共其志と陳んと欲し
 遂に三輪用綱二郎大庭強平諸岡前
 奈の枝と約し幕府の専横と挫
 せん為り京都幕府院小到り足利
 尊氏十三代の塑像の首を斬り之れ
 と三條橋小泉首せり當時幕府嚴
 其殺と逮捕に氏阿州徳山藩へ潜
 匿せり後維新に至り又富国の平
 カと尽くせり俊傑の士ありと聞く



小室信夫

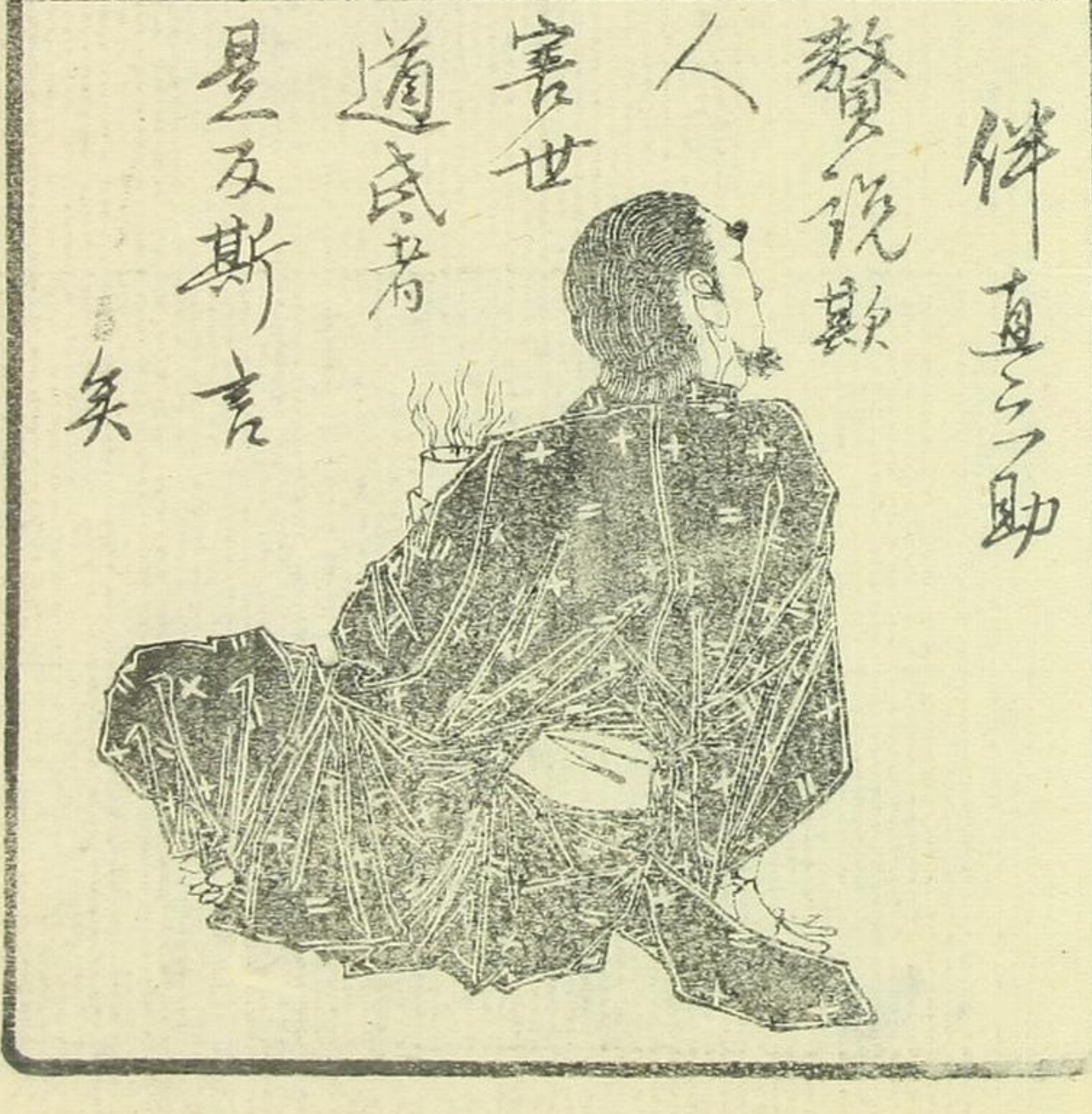
木首

軒来集

三條謂是狂乎

又善歟

未開の世上一を身成心のありの
 最も多し近世既開化の世と
 るれば天下有志の士の萃て彼の専
 屈心あり頑心と解釋して速やうふ
 此の士民と轉じて文明の幸福と愛
 らしめんとして厚意熱心の深き
 り憤發して演説會と為り或は往々
 遊歴して自主特権の妙理と説明し
 或は開化の商法と指示し又文明
 世界に行きつ所ろの工業と教授
 して各自其分と尽し其伎倆と叩き
 て懇切勉強をせし中より伴直之助
 の聖徳社會の一員として頗る開化
 の要點と演説論弁せし近世有名の
 俊傑をなせしや青像と画出し
 て此書を掲ぐあり



伴直之助

發說歎

人

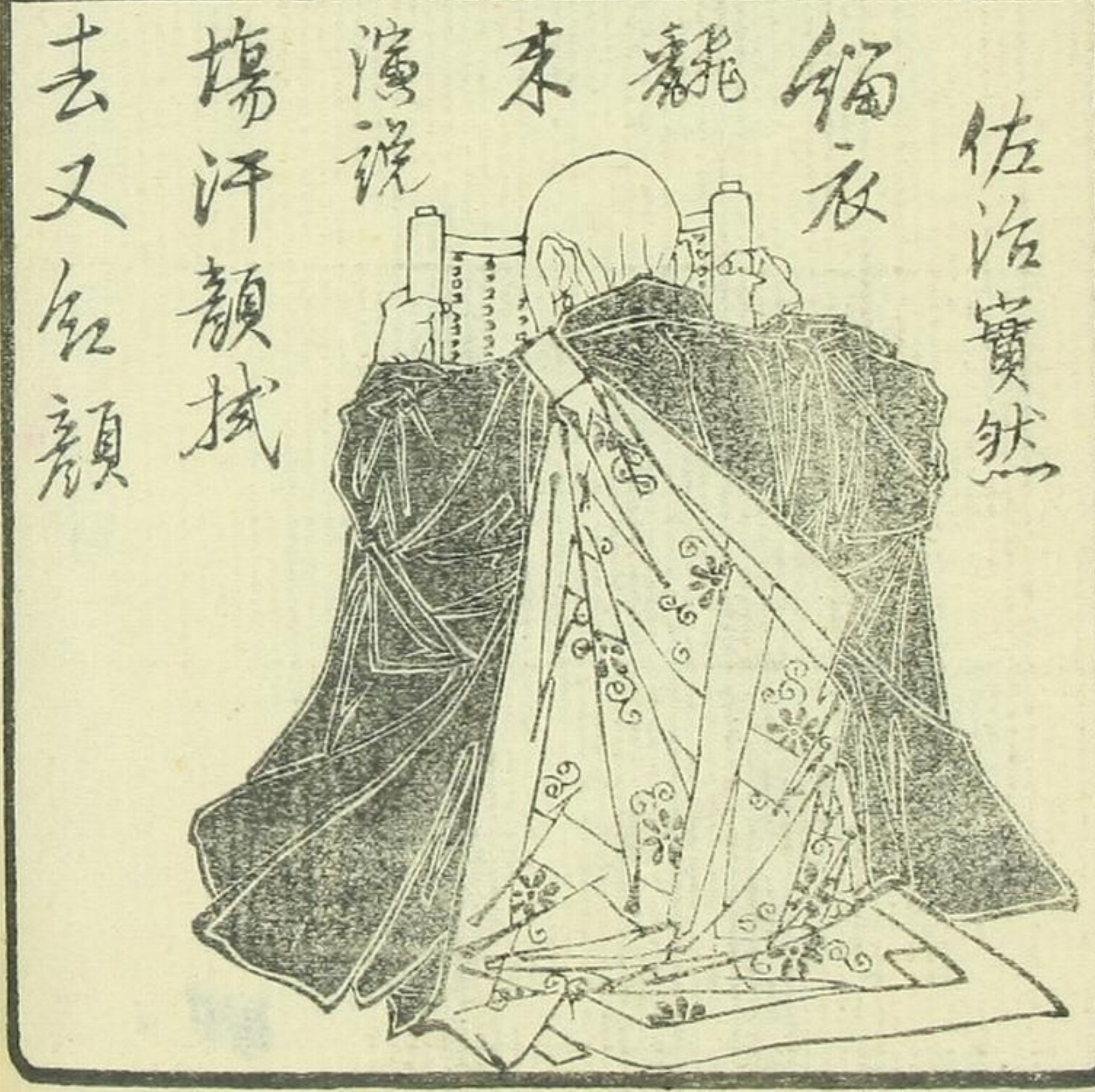
害世

道成者

是反斯言

矣

佐治實然も緇衣と真宗の法門は
 蒙り佛理を研究し昼夜怠らぬ
 夜や争とて学窓に起臥せらるること
 数年の久きと経て遠く有名あり
 佛教師とありたり于時近世耶蘇教
 世上蔓延して日月に盛大あると
 師の大ひみ歎息憤慨して該教もし
 天下に充滿せしむるが佛教は遂
 んと如何と地は落ち各自の方向も果
 らず思想を振ふて彼西洋諸州より流
 行せし佛の演説社會を激して爰
 佛教講談會と唱へし即ち一つの
 演説社會と結合して往々演説折と
 設けて雄談偉論をせしと聴者皆其
 志を賞せりと聞ゆ



永井碌も舊讀賣新聞社の編輯長よ
 り頗る勉強せし人あり氏は幼よ
 り字に志ざりて博く和漢の書と読
 ん篤く歴史と涉獵して至らざる所
 らあらずと云ふ所あらず遂に博
 識多才の人と稱せし其該社の人々
 皆其人より一時服せりと後故に
 て編輯の事と止めたり氏の筆は
 や艶麗に至つては破瓜の美人櫻
 花の下小徘徊せし如く其可憐なる
 流暢艶麗実上辞言も尽し難く又其
 激烈なる言も至つては堂々守り
 て正大明白の議論と主唱し其筆鋒
 実上堂々可うとばして毒蛇も遠く
 百川と避くるとや世人の評うらし
 て聞き傳ふ



夫は依頼心あり士民世上は多き
 實に進歩の障害ありと諸氏百家の
 新聞又雜誌中にも往々之と喋々せ
 して空言虚語に非ざれば然り而し
 て依頼心ある頑固なる士民とし
 て風を文明開化の域に棲息せしむ
 るの法方如何新聞を以て廣く之と
 誘導するふあうもあし又雜誌を以
 て教育するふあうもあし江湖の諸有
 志百般の思考とをせども其効薄し
 今や演説ありり之と耳目に入きて
 以つて直に心経へて各自の思
 想を振起せしむるあり爰に丸山名
 政氏も彼嚶鳴社會の一士として早
 くも士民自主の理由を演説せし一
 大俊弁の士ありと聞く

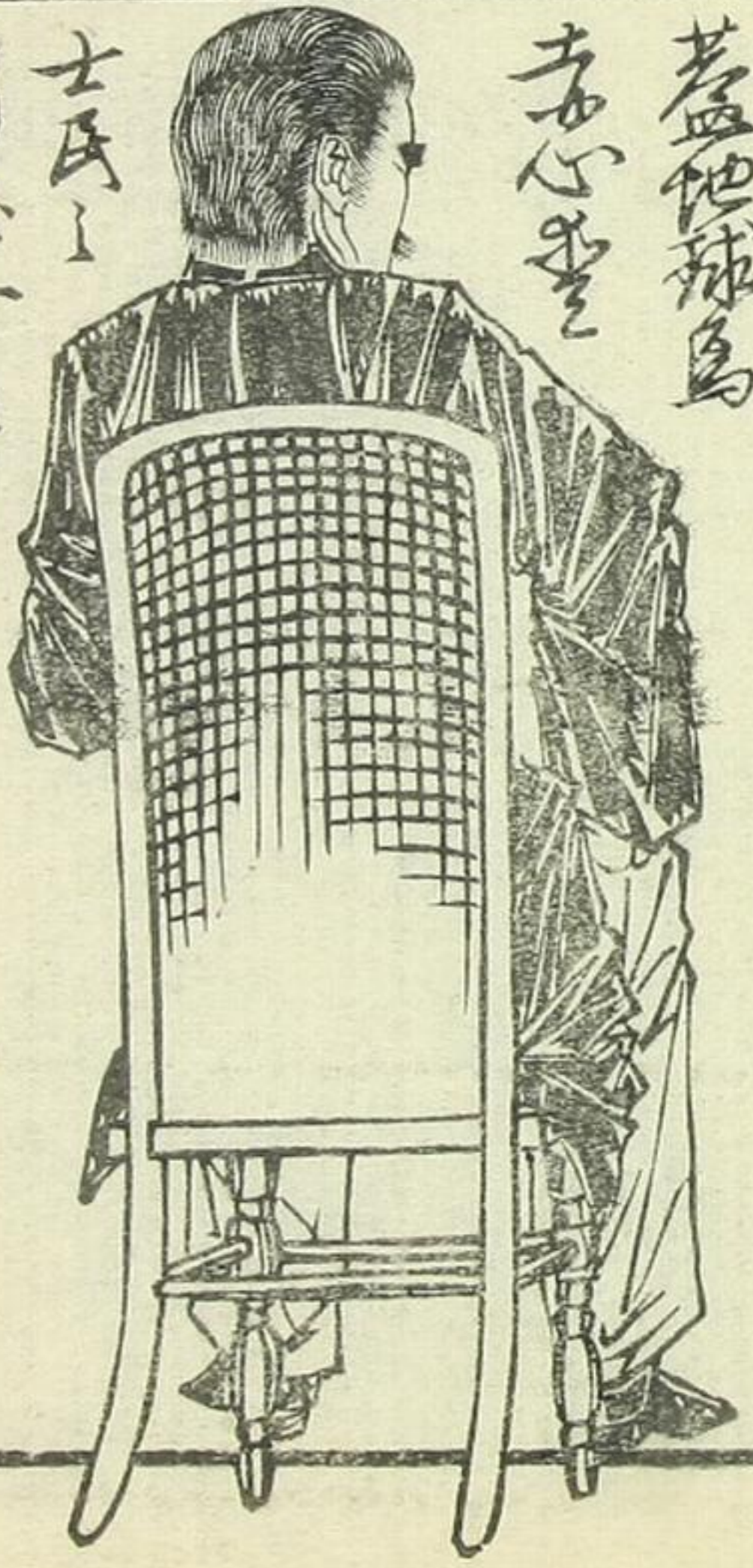
山名政



喋々舌應
 人每識復
 論自主自
 由之理

吉井友實の慶島縣の産として世に
 舊藩侯小奉仕せり氏は知り大志
 あり舊實温厚にして傳才あり英傑
 あり博く文學に通曉し又政學に達
 し加ふるに武辺の事に長し且工商
 の道と能く識る所の要方俊傑あり
 維新の前後頗る勤王の大義を主唱
 して頻りに東馳西支し又数度の戦
 争と爲して其勝を得ざるありあり
 りき士あり嘗て歐洲に遊び該国の
 情状と探知し又商工の術と弁知し
 て帰朝の後官を進み奏任の点に至
 り又退ひて大いに平思あり國家の
 富強人民の樂土得せしめんが爲し
 鐵道會社の社長と爲り東京より青
 森縣への鐵道を企つるといふ

吉井友實



名勳冠萬世為功歎
 蓋地球為
 赤心也
 士民
 情態各行
 為之向矣

010190530138

大隈重信の舊肥前の国佐賀藩の士あり學問に志きし兼て理財經濟の道に長せし博識多才の豪傑あり藩族開豊公に就て國事に尽力し王復古の論説と主唱し東奔西走の後速に王政維新の春を迎へて欣々然乎として官途不出て大藏卿に任せられ参議に昇り正四位の官位に進ずれ一英雄の士あるも故巧つて官を辞し退隱にても勤王の志を挫かば高む此國人民の早く文明の位地進歩せんものと欲し頻りに自主特權の理を説明して國家富國の要點を注意し自ら立て憤勵強せんれありと世人此氏と喋々せり嗚呼

明治十五年五月一日版權免許
 全 年十二月 出版

編輯人

東京府平民

谷 壯太郎

神田區皆川町五番地

出版人

東京府平民

水野 幸

日本橋區通油町十八番地

發兌人

東京府平民

水野慶治郎

日本橋區通油町十八番地



